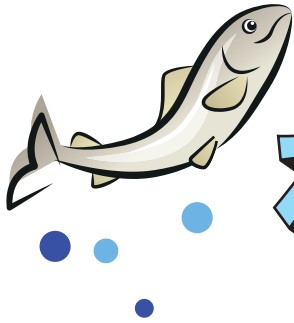


高津中学校区
東高津中学校区 地域教育会議だより



わかあゆ

編集・発行：高津・東高津中学校区地域教育会議 広報委員会

2022年
12月3日(土)

たかつde笑顔 ファミリースポーツ縁日2022 3年振り、高津区役所とSELFが主催のイベントを共催!

高津・東高津中学校区地域教育会議は、高津区役所と高津総合型スポーツクラブSELF主催のイベントに、共催で参加しました。

コロナ禍により3年振りの開催ということで、恒例の各種スポーツ体験ブースの他、地元協賛企業や地域有志グループによる多種多彩なプログラムが用意され、延べ3千人の地域の方にご来場いただきました。

中学校区地域教育会議は共催として運営面でSELFを支援したほ



本当に大勢の方が来場し、楽しんでいただけたと思います。

か、出展した川崎競輪やプロレス団体と委員の方が繋がっており、様々な形の連携ができました。

また、教育を語るつどい委員会がスポーツ推進委員と協力して、ボッチャの体験コーナーを運営しました。

スポーツ縁日のあゆみ

初回は、平成26(2014)年3月21日(祝)。親子で色々なスポーツを楽しみ参加し、地域が繋がることが目的です。

最後に参加者が校庭でスマイルの人文字を造るのが恒例になりました。地域の輪を実感!



2014年の人文字。

第2回目(平成26(2014)年12月)のサプライズは、ドッジビー体操の振付を行ったラッキィ池田さんがスペシャルゲストだったこと! また、2回目から現在のような11月末〜12月初旬の開催となりました。

4回目からは、障害のある方もスタッフで参加。障害の有無に関わらず、みんなで創り楽しむインクルーシブなイベントになりました。

主催者のSELF

SELFは、主として川崎市立

高津中学校の施設を利用し、多世代・多世代の多くの人々が楽しめる地域のあそび場を創出しています。

「Sports Enjoy Life Friendly」をコンセプトにSELF(自主的)に運営しているクラブです。

多世代・多世代のスポーツ活動の推進を図るとともに、学校、地域、家庭との連携を図りつつ、スポーツを通して青少年の健全育成及び地域住民の健康の保持増進等を支援する事業及び、障害児に対し地域生活の支援に関する事業を実施し、明るく豊かな地域社会の実現に寄与することを目的として活動を行っています。



菊地理事長(左から2人目)他、SELFの皆さん。

※『わかあゆ』は、地域の子どもたちが多摩川の清流で育つ若鮎のように、力強く健やかに成長して欲しい、との想いによるネーミングです。

朝から厚い雲に覆われ、寒さを心配しながらの準備となりましたが、昼過ぎの開会宣言に合わせたかのように太陽が顔を出し、暖かな日差しの下、沢山の子どもの笑顔が見られました。

プロレスリングHEAT-UPからは、この日、プロレス2試合と小学生を対象としたプロレス体験教室を開催しました。まず1試合目はイベント開始と同時に開始。イベント開始直後でまばらだった子どもたちも、いつしかリング周りに集まり、声援を送っていました。

イベント中盤には小中学生を対象としたプロレス体験教室を開催。想定していた以上に多くの子どもたちが参加してくれて、なかなか体験することのないリング上で、生き生きと体を動かす姿が印象的でした。

プロレス HEAT-UP



【プロレスリングHEAT-UP】

川崎市を中心に活動するプロレス団体。多摩区稲田堤に道場を構え、プロ選手たちの練習、育成を行うとともに、プロ選手達の指導の下、一般会員も通っており、プロレスや格闘技の練習に汗を流している。

団体の特徴として、プロレスを通しての社会貢献を掲げて活動しており、障がい者支援、青少年育成、地域活動などにも力を入れ、高津区ではSELFの寺子屋事業として小学生向けの体づくり教室を開催。



試合と体験教室以外でもイベントを通してリングを開放したこと、来場されたお客様がリングに上がって体を動かしてみたり、記念撮影をしたりと、普段はなかなか体験することのない非日常空間を満喫していた様子でした。

ボッチャ体験



本年度の教育を語るついでに委員会は、東京パラリンピックなどで話題になったボッチャの体験会を高津地区スポーツ推進委員の方々に協力いただき実施しました。

ボッチャは、赤青6球のボールを投げたり転がしたりして、白い目標球に近づくかを競うスポーツです。ルールが簡単なため、年齢・性別・障害のあるなしに関わらず、誰でも一緒に楽しめます。

体験会当日は、ベビーカーに乗っているような未就学児からご年配の経験者の方まで、幅広くたくさんの方にご参加いただきました。

初めは思い通りにいかなかった投球も、回数を重ね、チームごとに作戦を立てたり、スタッフからコツを教わったりして、上達し、夢中になっている姿も見ることができました。

体験後に行ったアンケートでは、「楽しかった」、「ボッチャに興味を持った」などの嬉しい回答がたくさんありました。

ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。



さまざまなパフォーマンス発表の舞台ともなりました！



“縁日”というくらい、いろいろ揃いました。



VR体験コーナー



似顔絵コーナー



高津消防署の起震車

ご参加いただいた地域の皆さんに、自転車の楽しさや競輪の素晴らしさを知っていただけたら嬉しく思います。

今後も何かありましたら協力していきたいと思っていますので、皆さんよろしく願います。

の地区長で、今年松山競輪のGⅢ競走を優勝した福田知也選手、川崎で選手指導員をしているベテランの井出尚治選手、昨年5月のデビューから、すでに7回優勝している若手のホープ新村稜選手のほか、ガールズ競輪で活躍中、今年アルテミス賞にも出走した人気選手の高木佑真選手と、豪華な顔ぶれの現役選手4名がイベントを盛り上げてくれました。

川崎競輪



川崎競輪場からは、現役の競輪選手と一緒に参加させていたいただきました。

イベント内容は、現役の競輪選手が普段使用しているワットバイクによる100mのタイムトライアルや、未就学児から大人まで楽しめる自転車をこぐとおもちゃが走り、4人で競争ができる『チャリ魂』を実施しました。



射的のコーナー



有機野菜販売コーナー



高津消防署の煙体験

イベントのフィナーレ

コロナ対策として、時間短縮(12時半〜15時半)、飲食無しで実施しました。ところが、各ブースやパフォーマンスのステージは大盛り上がり。



メインイベントのプロレス2試合目のタッグマッチが開始される頃は照明が必要に。

攻防を盛り上げます。

終了は予定を1時間超過した16時半。日は暮れかかり、夕暮れとなりましたが、最後に特設リングの周りに来場者全員が集まり、閉会式。

来年もまた沢山の子どもの笑顔に会えることを願いつつ、無事終了となりました。ご来場の皆様、ありがとうございました。

【編集後記】

今年度、3年振りで対面での総会を開いたものの、新しいメンバーで地域教育会議の活動をどう軌道に乗せるのか、難問でした。何とかうまく



閉会時、校舎の屋上から撮影。みんなありがとう！また来年。

いくかなと思ったのは、SELFが3年振りにファミリースポーツ緑日(『笑顔フェス』と言い習わしています)をやる、と聞いた時。

共催担当の企画委員会には、プロレスや川崎競輪に繋がりのある委員さんがいました。

教育を語るつどい委員会は、例年のように講演会を企画するには日程が厳しいと、笑顔フェスで『ボッチャ体験』のブースを運営することを企画。

フェス直前の11月は毎週2回は何かの会議があるという忙しさでしたが、会議後のLINEグループも含め、ああしよ、こうしようと、大盛り上がり。広報委員会もフェス当日に分担して取材ができました。

SELF様々ですが、この中学校区の活動からSELFが生まれたのでもあるし、これからも大事にしていきたい、と思いました。

地域教育会議がめざすもの

- ・子どもがいきいき育つまち
- ・おとも楽しく学べるまち

「地域教育会議」と聞いても知らない方が多いと思います。名称が堅いこともあり、浸透しているとは言えませんね。

1980年代、校内暴力で荒れる学校や少年事件が多発。川崎市では地域からの教育改革をめざし「地域教育会議」が提案されました。

地域と学校、行政が共に協力し、子どもがいきいき育つまちを作ろうというものです。そして、おとも楽しく学べるまち、ひいてはあらゆる人々が共に生きる地域社会をめざします。

地域教育会議は平成10年には7行政区、51中学校区すべてに設置されました。高津中学校区と東高津中学校区は、川崎市で唯一、2つの中学校区が合同で活動を行っています。

コロナ禍で活動が不自由な時期がありましたが、3年振りのファミリースポーツ緑日の開催、これを突破口に、中学校区の活動も動き出しそうな気がしました。高津・東高津中学校区、頑張ろう！

東高津中学校区 地域教育コーディネーター 角田

